

令和7年度 第1回 高等学校入学者選抜審議会

日時 令和7年7月25日（金）午後2時～

場所 行政庁舎11階 第二会議室

次 第

1 開 会

2 諮 問

- (1) 令和9年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について
- (2) 令和9年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について

3 審 議

- (1) ideal スクールの入試制度について
 - 専門委員会報告「ideal スクールの入試制度の在り方について」
- (2) 令和9年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について
- (3) 令和9年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について

4 報 告

- (1) 令和7年度宮城県公立高等学校入学者選抜結果について
- (2) 令和8年度宮城県公立高等学校入学者選抜について
 - ①募集定員
 - ②日程等
 - ③ウェブ出願について
 - ④調査書における欠席欄の扱いについて

5 その他

- (1) 全国募集について

6 閉 会

【 資 料 】

- 資料1 諮問・審議関係資料
- 資料2 報告関係資料
- 資料3 専門委員会報告
- 別冊 令和7年度宮城県公立高等学校入学者選抜学力検査の分析結果
令和8年度宮城県公立高等学校入学者選抜求める生徒像・選抜方法一覧

高等学校入学者選抜審議会条例

(昭和28年3月28日条例第40号)

最終改正 平成24年12月条例第71号

第1条 教育委員会の諮問に応じ、高等学校の通学区域の検討、入学者の選抜の方法及びその実施並びに学力検査問題の作成について調査審議するため、高等学校入学者選抜審議会（以下「審議会」という。）を置く。

第2条 審議会は、30人以内の委員で組織する。

2 審議会に、専門の事項を調査研究させるため、専門委員を置く。

第3条 委員及び専門委員は、学校の教職員、総合教育センターの職員、教育庁の職員及び学識経験者のうちから教育委員会が任命又は委嘱する。

第4条 委員の任期は二年とする。ただし、補欠による委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 教育委員会が必要と認めたときは、前項の規定にかかわらず、任期中においても当該委員を解職することができる。

3 専門委員は、当該専門の事項に関する調査研究が終了したときは、退任するものとする。

第5条 審議会に、委員長及び副委員長各一人を置き、委員の互選によって定める。

2 委員長は、会務を掌理する。

3 副委員長は、委員長に事故あるとき、その職務を代行する。

第6条 審議会の会議は、必要に応じて委員長が招集する。

第7条 この条例に定めるものを除く外、審議会の議事の手続その他審議会の運営に関し必要な事項は、委員長が会議にはかつて定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（昭和47年10月11日条例第27号抄）

（施行期日）

1 この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成24年12月20日条例第71号抄）

（施行期日）

1 この条例は、平成25年4月1日から施行する。

令和7年度 第1回高等学校入学者選抜審議会 名簿

(審議会委員)

No.	氏 名	現 職	備 考
1	田端 健人	宮城教育大学教職大学院 教授	
2	熊谷 龍一	東北大学大学院教育学研究科 教授	
3	坪田 益美	東北学院大学地域総合学部 教授	
4	川嶋 輝彦	仙台経済同友会 専務理事・事務局長	
5	高橋 千香子	宮城県高等学校PTA連合会 理事	
6	笠原 由佳	宮城県PTA連合会 副会長	
7	平塚 隆	女川町教育委員会 教育長	
8	新妻 英敏	仙台市教育局学校教育部教育指導課 課長	
9	伊藤 宣子	聖ウルスラ学院英智小中学校・高等学校 校長	
10	菊池 晃子	名取市立増田中学校 校長	
11	鶴岡 勝彦	仙台市立五橋中学校 校長	
12	猪股 智秋	宮城教育大学附属中学校 校長	
13	樽野 幸義	宮城県仙台第一高等学校 校長	
14	勅使瓦 理恵	宮城県名取高等学校 校長	
15	菅原 紀子	宮城県田尻さくら高等学校 校長	
16	佐竹 潤一	宮城県総合教育センター 所長	

(教育庁)

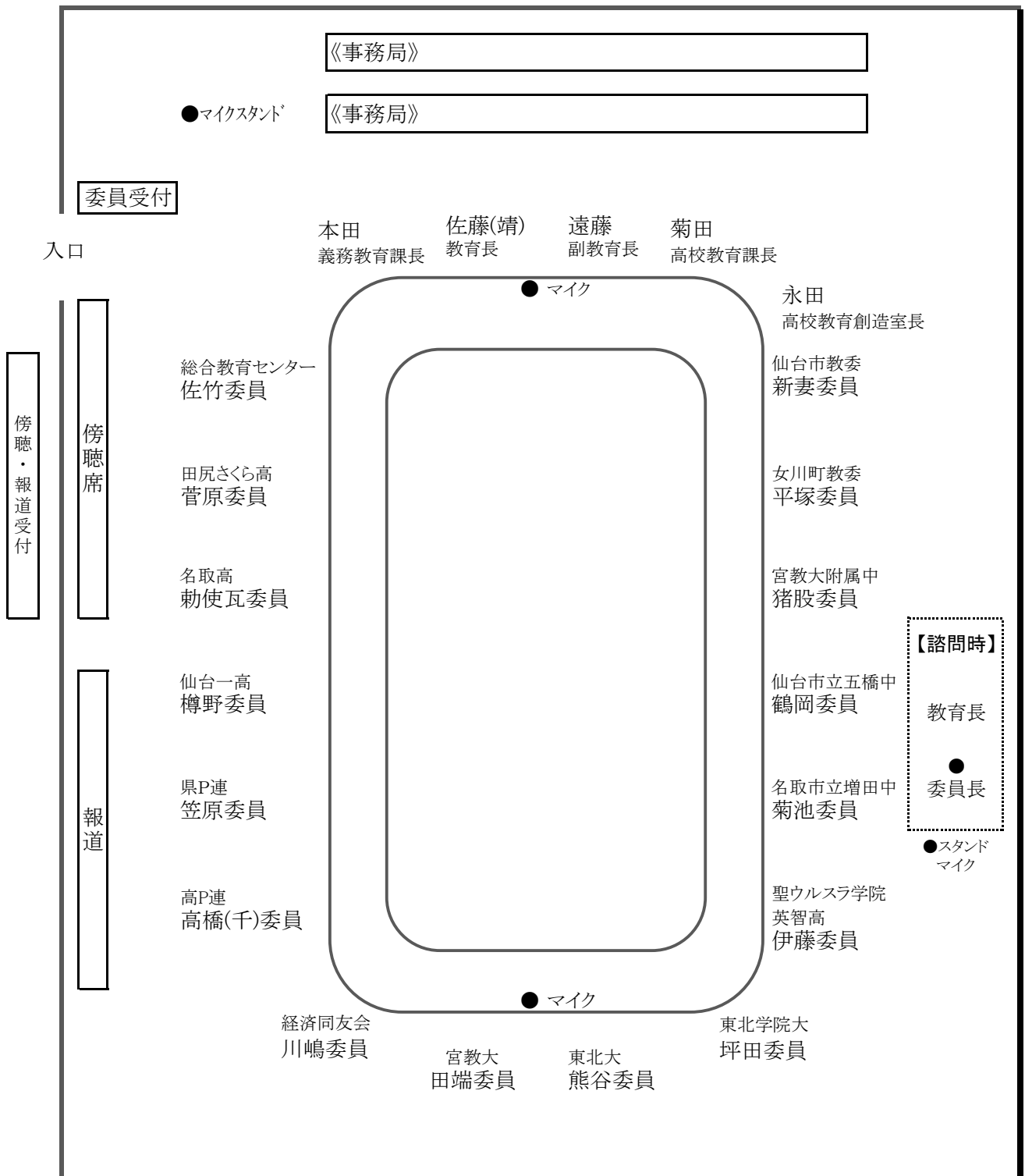
教育委員会	教育長	佐藤 靖彦
	副教育長	後藤 正樹
	副教育長	千葉 潤一
	副教育長	遠藤 秀樹
教職員課	県立学校人事班課長補佐	高城 邦弘
義務教育課	課長	本田 史郎
	指導班副参事	佐藤 浩一
高校教育課	課長	菊田 英孝
	総括課長補佐	渡邊 空
	副参事兼総括課長補佐兼総括室長補佐	福地 篤志
	教育指導第一班課長補佐	上遠野裕子
	〃 主幹	菅野 麻美
	〃 主幹	本郷 忍
	〃 主幹	菅野 準
	〃 主幹	岡田 康佑
	〃 主幹	佐々木威芳
	教育指導第二班課長補佐	大澤 健史
	〃 主幹	田畑 洋行
	〃 主幹	渡邊 伸明
	〃 主任主査	佐藤 光
高校教育創造室	室長	永田 靖和
	副参事兼総括課長補佐	吉田 光輝
	県立高校開設準備第一班室長補佐	村岡 正良

(仙台市教育局)

学校教育部	高校教育課	課長	中村 淳
	〃	指導主事	齋藤 一豊

令和7年度 第1回高等学校入学者選抜審議会 座席図

行政庁舎11階 第二会議室



諮問・審議 関係資料

諮 問

諮問文	1
1 令和9年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について（別紙1）	2
2 令和9年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について（別紙2）	4

審 議

1 ideal スクールにおける入試制度（案）について	
○ 専門委員会報告	
「ideal スクールにおける入試制度の在り方について」	別冊
2 令和9年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について	5
3 令和9年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について	
（1）平成28年度～令和8年度高等学校入学者選抜日程の推移	5
（2）令和9年度入学者選抜日程のシミュレーション	6

高 第 2 7 0 号

令和7年7月25日

高等学校入学者選抜審議会委員長 殿

宮城県教育委員会

教育長 佐 藤 靖 彦

宮城県立高等学校入学者選抜について（諮問）

このことについて、高等学校入学者選抜審議会条例第1条の規定により、
下記事項について諮問します。

記

- 1 令和9年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について（別紙1）
- 2 令和9年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について（別紙2）

令和 9 年度宮城県立高等学校入学者選抜方針（案）

宮城県立高等学校における入学者選抜は、高等学校及び中学校における教育の目的の実現及び健全な教育の推進を期し、公正かつ適正な選抜方法と選抜尺度により厳正に行うものとする。

1 基本原則

- (1) 各宮城県立高等学校長（以下「高等学校長」という。）は、その教育を受けるに足る多様な能力と適性等を積極的に評価し、選抜するものとする。
- (2) 出願事務及び選抜事務の厳正を期するため、中学校にあっては調査書等作成のための委員会を、宮城県立高等学校（以下「高等学校」という。）にあっては選抜のための委員会を設置するものとする。

2 第一次募集

- (1) すべての高等学校は、学校・学科の特色に応じて、第一次募集を実施する。選抜に当たって、高等学校長は、原則として、調査書、学力検査の結果及び必要に応じて実施する面接、実技（体育及び美術に関する学科の場合）、作文の検査結果に基づいて共通選抜と特色選抜の 2 通りの方法により選抜するものとする。
- (2) 学力検査
 - イ 学力検査の実施教科は、国語、社会、数学、理科及び英語とする。
 - ロ 学力検査の内容は、中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎的・基本的なものを重視するとともに、生徒の多様な能力・適性等が評価できる適切な質と分量の問題になるよう配慮するものとする。

3 追試験

すべての高等学校は、第一次募集検査日当日に、やむを得ない事由により受験できなかった者を対象に、追試験を実施する。

この場合、学力検査、面接、実技（体育及び美術に関する学科の場合）及び作文並びに選抜方法等については、第一次募集に準ずる。

4 第二次募集

合格者数が、募集定員に満たない場合においては、第二次募集を行うものとする。選抜に当たって、高等学校長は、調査書のみの審査、あるいは調査書に、第二次募集の学力検査、面接、実技（体育及び美術に関する学科の場合）及び作文のいずれか一つ又は複数の結果を合わせた審査を行うことができる。

5 連携型中高一貫教育に関する選抜

連携型中高一貫教育を実施する高等学校は、連携型中高一貫教育を実施する中学校の卒業生を対象とした選抜を実施する。選抜に当たって、当該高等学校長は、原則とし

て、調査書、その他必要な書類、学力検査（第一次募集に準ずる。）及び面接等の結果に基づいて総合的に審査するものとする。

6 社会人特別選抜

定時制課程の学科を有する高等学校においては、第一次募集において社会人を対象とした選抜を行うことができる。当該高等学校長は、学力検査について、弾力的に対応することができるものとする。

7 通信制課程に関する選抜

当該高等学校長は上記によらず、選抜を行うことができるものとする。

8 全国募集選抜

全国募集を行うモデル校として指定された高等学校は、該当する市町村と生徒受け入れに関して連携して、全国募集選抜への出願者を対象とした選抜を実施する。

この場合、募集人数は、募集定員の外数とし、選抜に当たって、当該高等学校長は、原則として、調査書、学力検査（第一次募集に準ずる。）及び面接等の結果に基づいて総合的に審査するものとする。

9 ideal スクールにおける選抜

ideal スクールにおいては、第一次募集における選抜に当たって、当該高等学校長は、原則として、調査書、学力検査（第一次募集に準ずる。）の結果及び面接の検査結果に基づいて、共通選抜と（ideal 選抜）の2通りの方法により選抜するものとする。

(別紙2)

令和9年度宮城県立高等学校入学者選抜日程(案)

第一次募集

実 施 日 令和9年 3月 3日 (水)

追 試 験 日 令和9年 3月 9日 (火)

合格発表日 令和9年 3月15日 (月)

審 議

1 令和9年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について

令和9年度宮城県立高等学校入学者選抜方針（案）（2ページ（別紙1）参照）

2 令和9年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について

（1）平成28年度～令和8年度宮城県立高等学校入学者選抜日程の推移

入試年度	28年度	29年度	30年度	31年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度
入試制度	前期選抜・後期選抜・第二次募集				第一次募集・第二次募集							
推薦入学・前期選抜 出願者受付	1.12～15	1.10～13	1.9～12	1.8～11								
推薦入学出願者の 面接等												
（私立高入試 A 日程）	1.27(水)	1.25(水)	1.24(水)	2.4(月)	2.4(火)	2.2(火)	2.1(火)	1.31(火)	1.30(火)	1.30(木)	1.29(木)	
（私立高入試 B 日程）	1.29(金)	1.27(金)	1.26(金)	2.6(水)	2.6(木)	2.4(木)	2.3(木)	2.2(木)	2.1(木)	2.3(月)	2.2(月)	
前期選抜実施日	2. 3(水)	2. 1(水)	1.31(水)	1.31(木)								
推薦入学結果通知 前期合格発表	2.12(金)	2. 9(木)	2. 8(木)	2. 8(金)								
第一次募集(後期選抜) 出願受付	2.23～26	2.21～24	2.19～22	2.18～21	2.17～20	2.15～18	2.15～18	2.14～17	2.13～16	2.10～14	2.9～13	
第一次募集(後期選抜) 学力検査	3. 9(水)	3. 8(水)	3. 6(火)	3. 6(水)	3.4(水)	3.4(木)	3.4(金)	3.6(月)	3.5(火)	3.4(火)	3.4(水)	
第一次募集(後期選抜) 追試験					3.10(火)	3.10(水)	3.10(木)	3.13(月)	3.8(金)	3.7(金)	3.10(水)	
第一次募集(後期選抜) 合格者の発表	3.16(水)	3.16(木)	3.14(水)	3.14(木)	3.16(月)	3.16(火)	3.16(水)	3.16(木)	3.14(木)	3.13(木)	3.16(月)	
第二次募集出願受付	3.17～18	3.17～21	3.15～19	3.15～18	3.17～19	3.17～19	3.17～22	3.17～22	3.15～19	3.14～18	3.17～19	
第二次募集実施日 ・合格発表	3.23～24	3.22～23	3.20 又は22	3.19 又は20	3.23 又は24	3.22 又は23	3.23 又は24	3.23 又は24	3.21 又は22	3.19 又は21	3.23 又は24	

※令和9年カレンダー

1 月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2 月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						

3 月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

(2) 令和9年度入学者選抜日程のシミュレーション

令和8年度入試 (2026年)			令和9年度入試 (2027年)					
			案1		案2		案3	
火	1月6日		水	1月6日	出願希望調査	水	1月6日	出願希望調査
水	7日	出願希望調査	木	7日	出願希望調査	木	7日	出願希望調査
木	8日	出願希望調査	金	8日	出願希望調査	金	8日	出願希望調査
金	9日	出願希望調査	土	9日		土	9日	
土	10日		日	10日		日	10日	
日	11日		月	11日	成人の日	月	11日	成人の日
月	12日	成人の日	火	12日		火	12日	
火	13日		水	13日		水	13日	
水	14日		木	14日		木	14日	
木	15日		金	15日		金	15日	
金	16日		土	16日		土	16日	
土	17日		日	17日		日	17日	
日	18日		月	18日		月	18日	
月	19日		火	19日		火	19日	
火	20日		水	20日		水	20日	
水	21日		木	21日		木	21日	
木	22日		金	22日		金	22日	
金	23日		土	23日		土	23日	
土	24日		日	24日		日	24日	
日	25日		月	25日		月	25日	
月	26日		火	26日		火	26日	
火	27日		水	27日		水	27日	
水	28日		木	28日		木	28日	
木	29日		金	29日		金	29日	
金	30日		土	30日		土	30日	
土	31日		日	31日		日	31日	
日	2月1日		月	2月1日		月	2月1日	
月	2日		火	2日		火	2日	
火	3日		水	3日		水	3日	
水	4日		木	4日		木	4日	
木	5日		金	5日		金	5日	
金	6日		土	6日		土	6日	
土	7日		日	7日		日	7日	
日	8日		月	8日	第一次募集出願期間	月	8日	第一次募集出願期間
月	9日	第一次募集出願期間	火	9日		火	9日	
火	10日		水	10日		水	10日	
水	11日	建国記念の日	木	11日	建国記念の日	木	11日	建国記念の日
木	12日		金	12日		金	12日	
金	13日		土	13日		土	13日	
土	14日		日	14日		日	14日	
日	15日		月	15日		月	15日	
月	16日		火	16日		火	16日	
火	17日		水	17日		水	17日	
水	18日		木	18日		木	18日	
木	19日		金	19日		金	19日	
金	20日		土	20日		土	20日	
土	21日		日	21日		日	21日	
日	22日		月	22日		月	22日	
月	23日	天皇誕生日	火	23日	天皇誕生日	火	23日	天皇誕生日
火	24日		水	24日		水	24日	
水	25日		木	25日		木	25日	
木	26日		金	26日		金	26日	
金	27日		土	27日		土	27日	
土	28日		日	28日		日	28日	
日	3月1日	卒業式	月	3月1日	卒業式	月	3月1日	卒業式
月	2日		火	2日		火	2日	
火	3日		水	3日	第一次募集学力検査日	水	3日	第一次募集学力検査日
水	4日	第一次募集学力検査日	木	4日	第一次募集面接等	木	4日	第一次募集面接等
木	5日	第一次募集面接等	金	5日	第一次募集面接等	金	5日	
金	6日		土	6日		土	6日	
土	7日		日	7日		日	7日	
日	8日		月	8日		月	8日	第一次募集追試験
月	9日		火	9日		火	9日	
火	10日	第一次募集追試験	水	10日	第一次募集追試験	水	10日	
水	11日	鎮魂の日	木	11日	鎮魂の日	木	11日	鎮魂の日
木	12日		金	12日		金	12日	第一次募集合格発表
金	13日		土	13日		土	13日	
土	14日		日	14日		日	14日	
日	15日		月	15日	第一次募集合格発表	月	15日	第二次募集出願期間
月	16日	第一次募集合格発表	火	16日	第二次募集出願期間	火	16日	
火	17日	第二次募集出願期間	水	17日		水	17日	第二次募集実施・合格発表
水	18日		木	18日	第二次募集実施・合格発表	木	18日	第二次募集合格発表
木	19日		金	19日		金	19日	
金	20日	春分の日	土	20日		土	20日	
土	21日		日	21日	春分の日	日	21日	春分の日
日	22日		月	22日	振替休日	月	22日	振替休日
月	23日	第二次募集実施・合格発表	火	23日	第二次募集実施・合格発表	火	23日	
火	24日	第二次募集合格発表	水	24日	第二次募集合格発表	水	24日	
水	25日		木	25日		木	25日	

令和 7 年度 第 1 回高等学校入学者選抜審議会

専門委員会報告

「ideal スクールにおける入試制度の在り方について」

I	ideal スクールについて.....	1
1	ideal スクールの基本理念.....	1
2	ideal スクールの概要.....	1
3	ideal スクールの特色.....	1
II	入選審及び専門委員会におけるこれまでの審議について	2
1	現行入試制度における、例外的な選抜の在り方について	2
2	ideal スクールにおける入試制度の在り方について.....	3
III	ideal スクールにおける入試制度（案）について.....	5
1	概要	5
2	共通選抜	5
3	ideal 選抜（仮）	6
4	募集割合、選抜順序について	6
	（参考資料 1）新たなタイプの学校（ideal スクール）の概要について.....	7
	（参考資料 2）他都道府県の入試制度について	11

I ideal スクールについて

1 ideal スクールの基本理念

- 多種多様なニーズを持つ、様々な背景を有する生徒に対し、個に応じた多様な学びと学習者中心の支援により、生徒の自律的な学びの実現と、社会的自立に必要な資質・能力の育成を目指すことを新たなタイプの学校、ideal スクールの基本理念とする。

【 多種多様なニーズ、様々な背景 】

- ① 大学進学等の進路希望を実現するために、自分のペースで学びたい
- ② 興味関心や適性に合わせ自己決定しながら、柔軟に学びたい
- ③ 音楽活動やスポーツ等のために、自由な時間を持ちながら学びたい
- ④ 集団生活や対人関係に不安を感じているが、自分の適性に合わせて学びたい
- ⑤ 学習のつまずきの解消のため、基礎基本に戻って学びたい
- ⑥ 学校に登校していない期間があったが、自分の状況に合わせて学びたい

2 ideal スクールの概要

(1) 設置場所等

宮城広瀬高等学校を ideal スクールに転換し、令和9年度に開校予定

(2) 募集定員

200 名

(3) 設置課程等

全日制・普通科・単位制

3 ideal スクールの特色

- 単位制を導入し、幅広い授業時間帯を設定することで、生徒の学びのプランに合わせて自分で時間割を作る、フレキシブルな学び方を実現することとしている。
- 魅力ある学びを実現するために、探究系、体験系、ICT系、学び直し系等の豊富な科目の設置を検討している。
- 多様な進路希望に応じた教科・科目の開講や習熟度別授業の導入により、学び直しから大学受験まで幅広く対応する。また、多様な科目の設置に加え、資格取得やボランティア、他の高校での科目履修などの学校外学修等を幅広く単位として認定する。
- チューター制の導入により、生徒の進路希望に応じた、教科・科目の選択や時間割作成などのサポート、学校生活や友人、家庭に関する悩みへの相談に対応する。また、多様なスタッフ（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、地域人材及びNPO等）とも協力して、様々な側面からサポートする体制を構築する。

II 入選審及び専門委員会におけるこれまでの審議について

1 現行入試制度における、例外的な選抜の在り方について

(1) 審議の経過

令和5年度 高等学校入学者選抜審議会 第3回専門委員会

令和6年3月25日(月)

令和6年度 高等学校入学者選抜審議会 第1回専門委員会

令和6年7月5日(金)

令和6年度 第1回高等学校入学者選抜審議会

令和6年7月25日(木)

(2) 審議の概要

【専門委員会設置の目的】

- 他都道府県の特徴ある学校で実施されている例外的な選抜方法についての調査・研究
- ・ 入学者選抜審議会において、現行入試制度については、旧制度の課題を概ね解消しているとして、一定の成果が認められた。
- ・ しかし、今後、各学校の特色化が進められる中で、現行の入試制度の範囲には収まらない選抜方法が求められる可能性がある。
- ・ 学びの多様化への対応や少子化の中での高校の在り方など、高校の将来構想を進める中で、現行入試制度は維持しつつ、入試制度についても検討する必要がある。
- ・ そこで、他都道府県の特徴ある学校で実施されている例外的な選抜方法について、調査・研究を始めることとする。

【新たな学校 ideal スクール設置の公表】

- 令和6年5月21日に行われた、「新たなタイプ」の学校を「ideal スクール」として設置の発表を受け、ideal スクールにおける選抜の在り方について検討開始。

【専門委員の主な意見等】

- ideal スクールの入試制度について、次のようなものが考えられる。
- ・ 共通選抜を実施しない(特色選抜を100%とする)。
- ・ 学力検査の倍率を一部または全部の科目で0倍とする。
- ・ 受験生の意欲を測る学校独自の選抜方法(学力検査に代わる学校独自検査、エントリーシートの提出など)の導入。

【審議会委員の主な意見等】

- ideal スクールにおける入試制度の在り方について、更なる調査・研究が必要であることから、新たな専門委員会の設置が必要。

2 ideal スクールにおける入試制度の在り方について

(1) 審議の経過

令和6年度 高等学校入学者選抜審議会 第2回専門委員会

令和6年10月31日(木)

令和6年度 第2回高等学校入学者選抜審議会

令和6年11月18日(月)

令和7年度 高等学校入学者選抜審議会 第1回専門委員会

令和7年5月26日(月)

令和7年度 高等学校入学者選抜審議会 第2回専門委員会

令和7年6月12日(木)

令和7年度 高等学校入学者選抜審議会 第3回専門委員会

令和7年7月4日(金)

(2) 審議の概要

【専門委員会設置の目的】

- 令和9年度開校を予定している ideal スクールには、様々な背景を抱えた生徒などが、幅広い目的を持って出願することが想定される。そのため、ideal スクールで実施する入学者選抜においては、現行の入試制度によらない例外的な選抜方法も含めて、十分な検討が必要である。
- 本専門委員会は、ideal スクールにおける入学者選抜の在り方について、専門委員のそれぞれの立場からの意見を収集することを目的とする。

【専門委員の主な意見等】

- 選抜方法について
 - ・ ideal スクールが多様な生徒を受け入れる学校であるならば、1つの物差しで選抜を行うことは難しいのではないかと。
 - ・ 生徒の意欲を多面的に見取るための入試制度として、現行の共通選抜と、新しい選抜方法である「ideal 選抜(仮)」を併用する制度が望ましい。
- 意欲の評価について
 - ・ 学力だけでなく、「意欲」を評価することも考えられるのではないかと。
 - ・ 単に学力を評価するのではなく、意欲を評価するという点は大変嬉しい。
 - ・ 意欲を評価するために、面接や作文の実施が望ましい。
 - ・ 対人関係に問題を抱えている生徒も多いと考えられるため、当日の面接のみでは力が発揮できない可能性がある。
 - ・ 自己申告書の事前提出の実施が望ましい。
- 志望理由書について
 - ・ 志望理由書を書くことは、進路指導の観点からも有用。
 - ・ 志望理由書は、私立高校の出願の際に一度記載する生徒が多いことから、ideal スクールの出願に必要となっても、それほど大きな負担にはならないものと考えられる。

○ 面接について

- ・「面接における質問事項」について、子供たちにとって入試に向けての準備の指標となることから、事前に一部公表してはどうか。
- ・面接試験に向けて、全員が同じような練習をして、同じような回答をする訓練がされてしまうと、全員が A 評価になるような形で差がつかなくなるのではないか。
- ・質問項目の事前公表については、志望理由書を全員に書いてもらうことから、ある程度志望理由書に沿った面接が行われることは想像がつくと思う。それ以上詳しい質問項目を示してしまうと、マニュアルどおりのような回答になってしまう懸念もあることから、「志望理由書を中心に行う」といった公表で良いのではないか。
- ・観点別に点数化して評価するのか、A、B、C のような段階で評価するのか。
- ・面接を基に選抜する必要があることから、面接の結果は点数化することが望ましい。

○ 学力検査について

- ・（3 教科での実施）面接があり、志望理由書があり、学力検査があり、その学力検査が 5 教科となると、どこの高校よりも負担が重い入試になっていないか。ideal スクールの入試として、学びやすい環境を求めて選ぶ学校の入試として、これだけの量を課すことは適切なのか。
- ・（5 教科での実施）3 教科に絞って実施するとした時に、その 3 教科が得意な生徒にとっては有利となるが、実施しないとした 2 教科が得意な生徒にとっては不利になってしまわないか。
- ・（3 教科と 5 教科の折衷案）全員が 5 教科を受験するが、その受験者ごとに上位 3 教科だけを抽出し、他の 2 科目は加算しないという評価方法も考えられるのではないか。
- ・学力検査を重視する C 方式だけであれば、5 教科実施で 3 教科の評価という形もありえるかと思うが、面接を重視して選抜する A 方式や調査書を重視して選抜する B 方式があることから、学力検査を重視する C 方式では、5 教科を評価することが良い。
- ・3 教科にしてしまうと、苦手な教科の学習はしなくてもよいという誤ったメッセージを与えてしまうことが懸念されないか。
- ・中学校においては、すべての教科における学びを大切にしていることから、3 教科だけ勉強すれば良いとは言わない。5 教科を実施し、5 教科を評価することが望ましい。
- ・学力試験の結果も、「意欲」の一部を表すものと考えられる。上位 3 教科を評価するとしたときに、結果として得点が高かった 3 教科が、これまで自分が頑張ってきた教科とは異なるかもしれない、そうなったときには、その上位 3 教科の得点が本人の努力や意欲を表しているとは言えないのではないか。5 教科を実施し、5 教科を評価することが望ましい。

○ 募集割合、選抜順序について

- ・現行の入試制度では、共通選抜の割合は、募集定員の 50% から 90% の範囲で設定することとしているが、特別な場合については 10% から 90% まで設定できるということであった。ideal スクールにおいても、共通選抜を 10% にすることも考えられる。
- ・ideal スクールで設置を検討しているカリキュラムを踏まえると、共通選抜を募集定員の 10%、ideal 選抜を 90% としてよいのではないか。
- ・選抜順序について、多様な個性や資質、特に意欲を評価し選抜するために、ideal 選抜を先に実施してはどうか。
- ・募集割合及び選抜順序については、開校からある程度期間が経ったところで、設定した数値が妥当であるかを検証し、見直しも含めて検討していくべきである。

III ideal スクールにおける入試制度（案）について

1 概要

- 1回の学力検査に対して2通りの方法で選抜する現行制度を拡充し、特色選抜に替えてideal選抜（仮）を新設する。
- ideal選抜（仮）では、A方式、B方式及びC方式の3つの方式で選抜を行う。
- 選抜においては、すべての受験者について、共通選抜及びideal選抜（仮）の3つの方式すべての選抜の対象として選抜する。
- 出願資格、出願制限、出願期間、学力検査日、追試験、合格発表等については、現行の入試制度と同様とする。

《 ideal スクールにおける2つの選抜 》

共通選抜	学力検査・調査書に基づいて行う選抜。
ideal 選抜（仮）	A、B、Cの3つの方式により行う選抜。 A方式：面接の結果を重視する方式 B方式：調査書・面接の結果を重視する方式 C方式：学力検査・面接の結果を重視する方式

2 共通選抜

（1）学力検査点（500点満点）

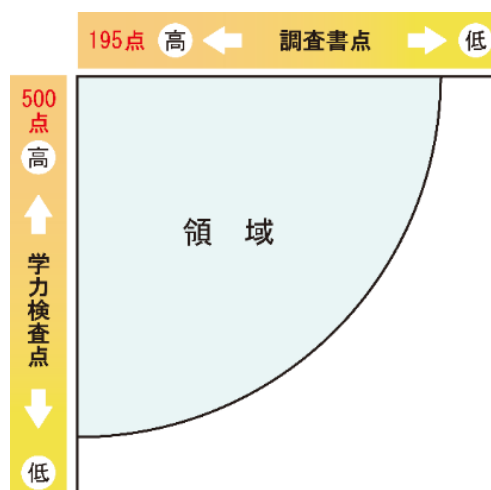
学力検査点は、国語、数学、社会、英語及び理科の学力検査の得点の合計点とする。

（2）調査書点（195点満点）

調査書点は、調査書の音楽、美術、保健体育及び技術・家庭の評定値を2倍にして、国語、数学、社会、英語及び理科の評定値と合計して算出する。

（3）選抜方法

学力検査点と調査書点の相関図を基に、その両方の満点により近い者を上位として、上位の者から審査し、共通選抜の募集人数分を選抜する。



3 ideal 選抜（仮）

（１）学力検査点（500 点満点）

学力検査点は、国語、数学、社会、英語及び理科の学力検査の得点を合計して算出する。

（２）調査書点（135 点満点）

調査書点は、調査書の各教科・各学年の評定を合計して算出する。

（３）面接点（配点は当該高等学校で定める）

イ 面接の形式は、個人面接とする。

ロ 面接は、志願者が提出した志望理由書を参考に実施する。

ハ 当該高等学校で評価基準を定め、評価を行う。

（４）選抜方法

イ A方式、B方式、C方式の3方式によって選抜を行う。

ロ A方式は、面接の結果を重視して選抜する方式とする。

A方式においては、学力検査点及び調査書点を用いず、面接の結果を基に、調査書の記載事項も用いて総合的に審査し、選抜する。

ハ B方式は、調査書点を重視して選抜する方式とする。

B方式においては、学力検査点を用いず、調査書点と面接の結果を基に、調査書の記載事項も用いて総合的に審査し、選抜する。

ニ C方式は、学力検査の結果を重視して選抜する方式とする。

C方式においては、調査書点を用いず、学力検査点と面接の結果を基に、調査書の記載事項も用いて総合的に審査し、選抜する。

4 募集割合、選抜順序について

（１）募集割合

イ 共通選抜の募集割合は、募集定員の10%とする。

ロ ideal 選抜（仮）の募集割合は、募集定員の90%とする。

（２）選抜順序

選抜は、ideal 選抜（仮）、共通選抜の順で行う。

《 共通選抜、ideal 選抜（仮）の概要一覧 》

選抜順序		ideal 選抜（仮） → 共通選抜			
		学力検査点	調査書点	面接点	募集割合
共通選抜		○	○	—	募集定員の10%
ideal 選抜（仮）	A方式	—	—	○	募集定員の90%
	B方式	—	○	○	
	C方式	○	—	○	

専門委員会報告 参考資料 1

「新たなタイプの学校（ideal スクール）の 概要について」

1 設置の背景と基本理念

- 生徒の興味・関心、進路希望の多様化
- 様々な背景を抱えた生徒の増加（学校生活や学習に困難を抱える生徒など）

○新たなタイプの学校の基本理念
個に応じた多様な学びと、学習者中心の支援により、
生徒の自律的な学びの実現と、将来の社会的自立に必要な資質・能力の
育成を目指す。

2 新たなタイプの学校の概要

- 設置場所等 宮城広瀬高等学校を新たなタイプの学校に転換し、
令和9年度に開校(予定)
※宮城広瀬高等学校は令和9年度に募集を停止し、
令和10年度末で閉校
- 募集定員 200名
- 設置課程等 全日制・普通科・単位制

3 求める生徒像

○次のような、多様な生徒を求めます

大学進学等の進路希望を実現するため、自分のペースで学びたい

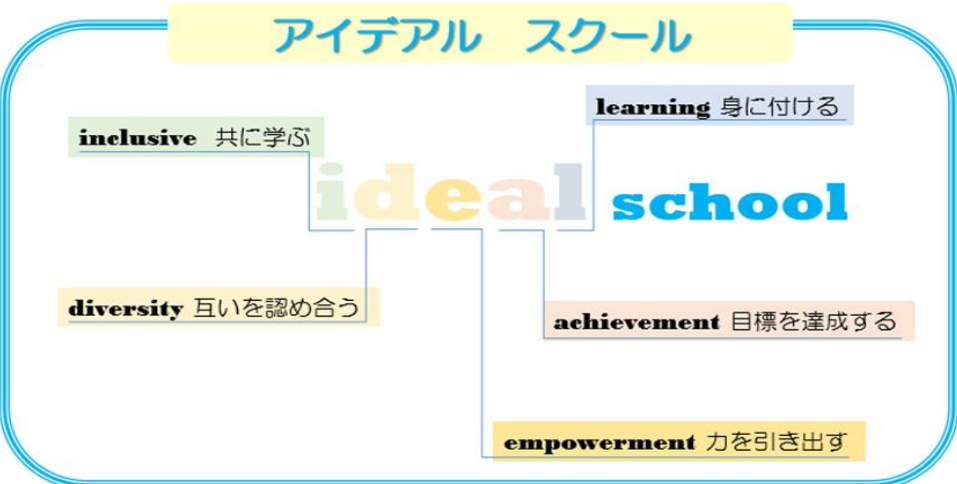
集団生活や対人関係に不安を感じているが、自分の適性に合わせて学びたい

興味関心や適性に合わせ自己決定しながら柔軟に学びたい

学習のつまずきの解消のため、基礎基本に戻って学びたい

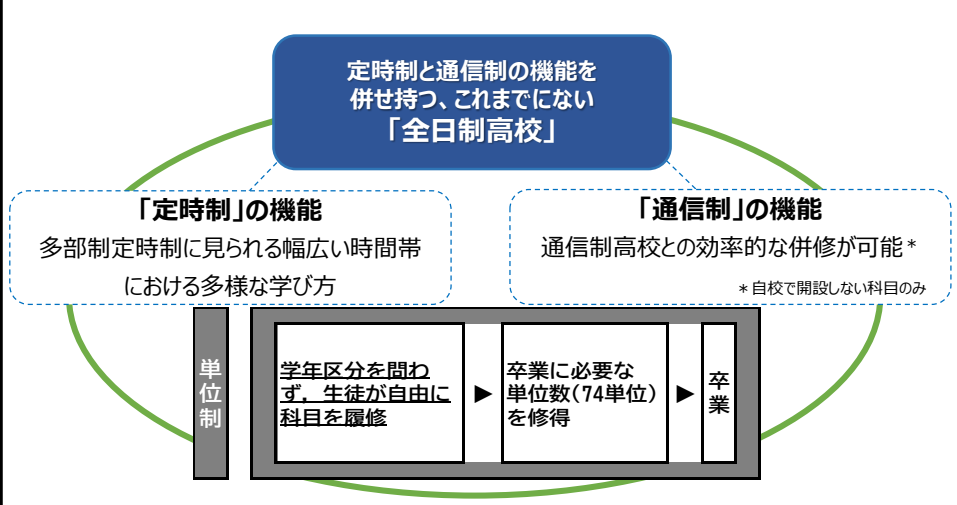
音楽活動やスポーツ等のため自由な時間を持ちながら学びたい

学校に登校していない期間があったが、自分の状況に合わせて学びたい



idealとは「理想、理想的」という意味の英単語ですが、ここでは、各単語の頭文字を合わせた造語としての意味を重ねています。さらには、目指す教育の実現のために、多くのアイデア (idea)、工夫を追求していくという思いが込められています。

4 学校の位置付け



5 学校の特徴

I フレキシブルな学び方

- (1)単位制の導入
- (2)幅広い授業時間帯の設定
- (3)通信制高校との併修*
- (4)資格取得、ボランティア等を単位として認定

II 魅力ある学び

- (1)探究的な学び
- (2)ICTを活用した学び
- (3)地域等と連携した学び
- (4)多様な人材を活用した学び

III 多様な教科・科目

- (1)多様な進路希望に応じた教科・科目
- (2)学び直しのための教科・科目
- (3)習熟度別授業の導入

IV サポート体制の充実

- (1)チューター制の導入
- (2)多様なスタッフ（スクールカウンセラー・ソーシャルワーカー、地域人材・NPO等）による支援

idealスクール

* 本校で開設しない科目のみ

6 幅広い授業時間帯

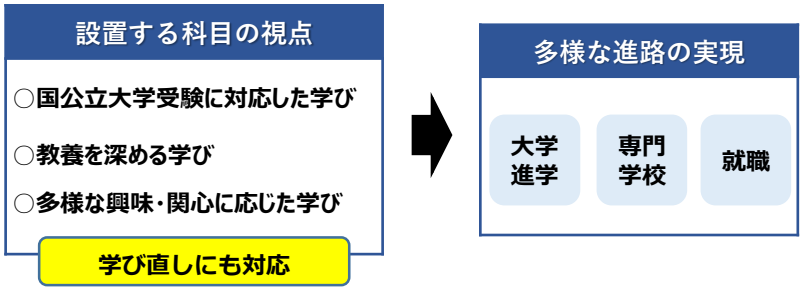
○ 1～8校時の幅広い授業時間帯を設定し、生徒自身の生活スタイル、興味・関心等に応じて、主体的な授業選択が可能

1校時	2校時	3校時	4校時	昼休み	5校時	6校時	7校時	8校時
主に選択教科・科目		コアタイム(主に必修教科・科目を設置) LHR及び総合的な探究の時間等も含む				主に選択教科・科目		

	1	2	3	4	5	6	7	8
	多様な教科・科目		必修教科目				多様な教科・科目	
月		選	必	必	必	必		
火	選	選	必	必	必	必		
水			必	必	必	必	選	
木			必	必	必	必	選	
金		選	必	必	必	必		
コアタイム								

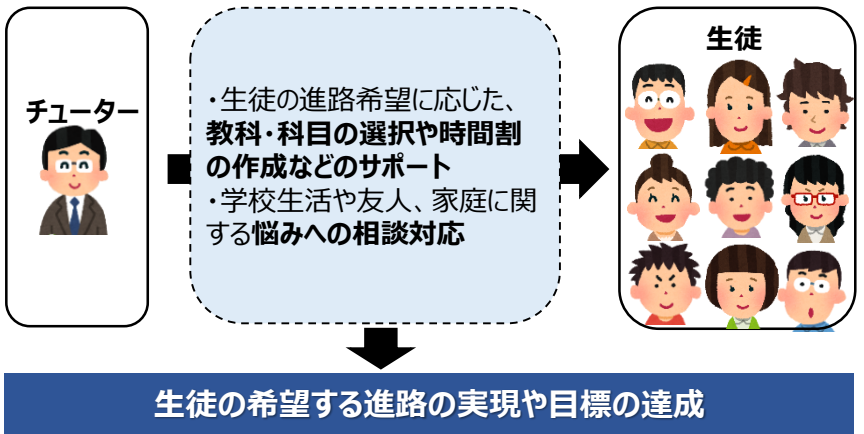
7 多様な教科・科目

- 多様な科目の設置に加え、資格取得やボランティア、他の高校での科目履修などの学校外学修等を幅広く単位として認定
- 将来の社会的自立に必要な資質・能力の育成に繋がる学びや多様な人材を活用した学びなど、魅力ある学びを実施



8 充実したサポート体制

○従来の「学級」は置かず、チューター制を導入



- 地域人材やNPO等とも協力してさまざまな側面からサポート体制を構築
- ICTを活用した生徒との連絡体制を構築

① フレキシブルな学び方 学びのプランに合わせて、自分で作る時間割

	月	火	水	木	金	開講科目	
1						多様な教科・科目	
2							
3						コア タイ ム	必修 科目 を 中心 に 設 置
4							
5							
6							
7							
8						多様な教科・科目	

科目の色分け

黄色：必修科目

緑色：学習指導要領選択科目

橙色：学校設定教科・科目

② 魅力ある学び

学校設定教科・科目

- ・ 探究系
- ・ 体験系
- ・ ICT系
- ・ 学び直し系

③ 多様な教科・科目

多様な進路希望に応じた
教科・科目を開講

- ・ 学び直しから大学受験まで
- ・ 学校外学修等で単位認定

④ 充実したサポート体制

- ・ チューター制
- ・ 学習支援員
- ・ 学習支援ボランティア
- ・ SC、SSW
- ・ NPO法人 など

専門委員会報告 参考資料 2

「他都道府県の入試制度について」

複数の方式を併用して選抜する制度

● 大阪府「エンパワーメントスクール特別入学者選抜」

対象となる学校	エンパワーメントスクール（8校）
概要	学力検査（基礎）、調査書、面接及び自己申告書を基に選抜する。
出願資格	なし
募集定員	各校210名（第一手順での合格者は、募集人員の50%を上限）
提出物	自己申告書（事前に提出）
選抜方法	○第一手順として、学力検査点が基準に達した者の中から、面接、自己申告書、調査書（活動行動の記録のみ）により総合的に判定。 ○第二手順として、学力検査点（225点）、調査書評定（3年3倍、225点）を事前に公表する倍率タイプにより判定。
日程	一般入試と別に実施

(様式 111 表) A 4 判

<特別・能勢分校・帰国生・一般・二次・秋季選抜用>

令和7年度入学者選抜

※印は志願先高等学校で記入する。

受験
番号

※

追検査

自己申告書

_____ 高等学校長 様

下記のとおり、申告します。

志願者名 _____

記

【テーマ】

あなたは、中学校等の生活（あるいはこれまでの人生）でどんな経験をし、何を学びましたか。また、それを高等学校でどのように生かしたいと思いますか。できるだけ具体的に記述してください。

志願者名 _____

(参考) 大阪府「令和7年度大阪府公立高等学校入学者選抜実施要項（令和6年10月17日公表）」（https://www.pref.osaka.lg.jp/o180040/kotogakko/gakuji-g3/r07_jisshiyoko.html）

1 複数の選抜方法の併用について

複数の方式を併用して選抜する制度

● 北海道「道立高等学校一般入学者選抜」

対象となる学校	道立高校
選抜資料	○個人調査票（調査書） ○学力検査の結果 ○面接、実技を行った場合はその結果
選抜方法	次に示す方法で合格者を決定する。 (ア)募集人員の70%程度については、個人調査書の「各教科の評定」の記録と学力検査の成績を同等に取り扱い、選抜を行う。 (イ)募集人員の15%程度については、個人調査書の内容等を重視して、選抜を行う。 (ウ)募集人員の15%程度については、学力検査の成績を重視して、選抜を行う。

○ 「各教科の評定の記録」の算出方法

1 学年	2 学年	3 学年
9教科 × 5 段階評定 × 2 倍 = 90点満点	9教科 × 5 段階評定 × 2 倍 = 90点満点	9教科 × 5 段階評定 × 3 倍 = 135点満点
合計		
315点		

(参考)

北海道教育委員会「令和7年度（2025年度）道立高等学校入学者選抜の手引」

(<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gks/201495.html>)、

北海道教育委員会「【個人調査書】様式ダウンロード」

(<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gks/nyusenkojinchoushasho.html>)

1 複数の選抜方法の併用について

受験者が選抜資料を選択する制度

- 島根県「長期欠席者等に配慮した選抜方式」
（令和8年度入試より実施予定）」

対象となる選抜	全ての高校の一般入学者選抜、第2次募集
概要	個人調査報告書（調査書）を用いず、学力検査、面接及び実技検査（実技検査は一部の学科のみ）の総合点により選抜する。
出願資格	中学校等在学中に長期にわたって欠席した者等
募集定員	特に定めない（各学科の募集人員の内数）
提出物	○自己申告書（受験者本人：提出できる） ○状況説明書（中学校：必須）
選抜方法	当該選抜方式での出願者を除いた一般入学者選抜又は第2次募集の学力検査の合格ラインを参考資料とする。
日程	一般入学者選抜、第2次募集の中で実施

（参考） 島根県「高校入学者選抜関連情報」
（https://www.pref.shimane.lg.jp/education/kyoiku/senbatsu/senbatsu_info/）

学力検査を実施しない制度

- 東京都「東京都立高等学校チャレンジスクール入学者選抜」

対象となる学校	チャレンジスクール
学校の特徴	小・中学校時代に不登校経験を持つ生徒や、長期欠席等が原因で高校を中途退学した者等を主に受け入れる。
概要	○学力検査なし ○調査書の提出不要 ○学校指定の志願申告書を提出
提出物	志願申告書（事前に提出）
選抜資料	○面接 ○作文 ○志願申告書
選抜方法	選抜資料を総合した審査結果にて判定。

（参考） 東京都「東京都立高等学校チャレンジスクール入学者選抜実施要綱」
（https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/kyoiku/4_20）

特色ある面接制度①

● 神奈川県「クリエイティブスクール」

対象となる学校	クリエイティブスクール（5校） 田奈、釜利谷、横須賀南、大井、大和東
学校の特色	一人ひとりが持っている力を必ずしも十分に発揮できなかった生徒に対して、これまで以上に学習意欲を高める取組を行う。
概要	○学力検査なし。 ○調査書は観点別評価のみを点数化。 ○面接及び自己表現検査は、各校で定めた評価の観点に基づき点数化。
選抜方法	調査書、面接、自己表現検査の合計値の高い者から総合的に選考。

○ 田奈高等学校（普通科）の例

	満点	評価の観点
面接	20点	・入学希望の理由 ・高校生活に対する意欲と積極性 ・面接への取組姿勢
自己表現検査	30点	・事前準備 ・本校の特色等の理解 ・高校生活に対する意欲と積極性

○ 田奈高等学校における自己表現検査

事前に与えられた本校の特色やグランドデザイン及び高校生活に対する意欲などに関するテーマについて自分の考えをまとめ、50分で記述する。テーマについては、募集期間の初日に学校ホームページで公開する。

特色ある面接制度②

● 広島県「自己表現」

対象となる選抜	一次選抜、二次選抜
概要	「広島県の15歳の生徒に身に付けさせたい力」である「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力」がどのくらい身に付いているかをみるために実施する試験
実施形態	個人ごとの面談形式
内容	自分自身のこと（得意なことやこれまで取り組んできたことなど）や高等学校に入学した後の目標などについて、自分で選んだ言葉や方法で表現する。
自己表現の時間	5分以内
質問・回答	検査官は、受験者が自己表現した内容に対する補足的な質問を行う。 時間は、受験者が質問に回答する時間を含め3分以内とする。
評価	3観点について、3段階（5点、4点、3点）で評価。

評価の観点		
ア 自己を認識する力	イ 自分の人生を選択する力	ウ 表現する力
評価規準		
自分は何が好きなのか、自分はどういう人間なのかなど、自分自身のことを認識することができる。	自分の夢や目標、自分がやりたいことなどについて、自分で考え、選択し、自分の意志で決めることができる。	自分自身のことや自分の意見などを、相手に理解してもらえるように、相手や場面に応じて、言葉の使い方や表現の仕方などを工夫しながら伝えることができる。
評価及び評価の視点		
各観点について、それぞれ3段階で評価。 ○「十分に満足できる」状況 … 5点 ○「おおむね満足できる」状況 … 4点 ○「努力を要する」状況 … 3点		

(参考) 広島県教育委員会 ホットライン教育ひろしま「自己表現について」
(<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/jikohyouden-mokuji.html>)

受験者によって異なる教科について 傾斜配点を実施している制度

● 神奈川県「共通選抜」 ※実施校一覧から一部抜粋

【学力検査について】

2教科以内の得点に、1を超え2以下の係数を乗じることができる。

【調査書の学習の記録における評定について】

$$\left(\begin{array}{c} \text{第2学年の} \\ \text{9教科の} \\ \text{評定の合計} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{第3学年の} \\ \text{9教科の} \\ \text{評定の合計} \end{array} \right) \times 2$$

ただし、高等学校長は、3教科以内の評定合計値に、1を超え2以下の係数を乗じることができる。

○ 大船高等学校 全日制 普通科

学力検査

- 英語(×1.5)
- 国語、数学のうち点数の高い1教科(×1.5)

○ 上溝（かみみぞ）高等学校 全日制 普通科

学力検査

- 英語(×2)
- 国語、数学のうち点数の高い1教科(×1.5)

○ 市ヶ尾（いちがお）高等学校 全日制 普通科 荏田（えだ）高等学校 全日制 普通科 他

調査書

音楽、美術、保健体育、技術家庭科のうち、点数の高い1教科(×2)

○ 山北高等学校 全日制 普通科

調査書

音楽、美術、保健体育、技術家庭科のうち、点数の高い2教科(×2)

○ 鶴見総合高等学校 単位制による全日制 総合学科 他

調査書

点数の高い1教科(×2)

○ 横浜桜陽（おうよう）高等学校 単位制による全日制 普通科

調査書

点数の高い2教科(×2)

学力検査

点数の高い1教科(×2)

（参考）神奈川県「令和7年度神奈川県公立高等学校の入学者の募集及び選抜実施要領」
(<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/dc4/nyusen/nyusen/jishiyoryo.html>)、
神奈川県「令和7年度神奈川県公立高等学校入学選抜選考基準及び特色検査の概要」
(https://www.pref.kanagawa.jp/docs/dc4/nyusen/nyusen/senko_kijun.html)

調査書の提出が不要な制度

● 奈良県「奈良県立大和中央高等学校入学者選抜」

対象となる学校	大和中央高等学校
学校の特徴	「学びたいときに学べる学校」 「学ぶ必要ができたときに学べる学校」 生徒自身が授業を選択して時間割を作成し、 自分のペースに合わせた学習計画を立て、 修得した単位を積み重ね卒業を目指す。
概要	調査書の提出不要
選抜資料	○特色選抜学力検査問題（県教委作成） ○面接
選抜方法	原則として、各検査の合計点の多い者から 順に選抜。

（参考） 奈良県「令和7年度奈良県立高等学校入学者選抜実施要項」
<https://www.pref.nara.jp/67201.htm>

● 鹿児島県「開陽高等学校 自己推薦」

対象となる学校	開陽高等学校
対象となる選抜	第1回入学者選抜（推薦入学者選抜）
学校の特徴	単位制、普通科・衛生看護科の3学科を併置し、生活スタイルに合わせて志望できる。 他課程の単位修得可（受講条件あり）。
概要	○全日制・定時制の「自己推薦」は調査書の提出不要。 ○学力検査なし。
選抜資料	○自己表現（5分程度） ＋面接対話（15分程度） または ○作文（50分、600字程度） ＋面接対話（10分程度） ※自己表現の例 歌唱・絵・写真・弁論・朗読・創作（詩・小説・音楽）・英語暗唱・ハングルスピーチ・ダンス・楽器演奏（ギター・管楽器等）・手話・茶道・書道・弓道・野球・バスケットボール 等

（参考） 鹿児島県立開陽高等学校「令和7年度入学案内・生徒募集要項」
<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/kaiyo/docs/2021120800064/>

面接のための参考資料を提出する制度

● 東京都「エンカレッジスクール」

対象となる学校	エンカレッジスクール
学校の特徴	小・中学校で十分能力を発揮できなかった生徒のやる気を育て、頑張りを励まし、応援する学校として、社会生活を送る上で必要な基礎的・基本的学力を身に付けることを目的として、既設校の中から指定。基礎・基本を徹底するとともに体験学習を重視。
概要	○学力検査なし ○面接、小論文または作文及び実技検査を実施。 ○自己PRカードを面接の際の資料に活用。
選抜資料	○面接 ○作文 ○調査書の観点別評価 ○志願申告書
選抜方法	選抜資料を総合した審査結果にて判定。

自己PRカード

東京都立_____高等学校長 殿 _____年____月____日
_____立_____中学校
氏 名_____

1 志望理由について
(この学校を志望した理由と入学してから自分が取り組みたいと思うことなどについて『本校の期待する生徒の姿』を参考にして記入しましょう。)

2 中学校生活の中で得たことについて
(中学校生活の中で自分が特に伝えたいことを学校内外で体験したことから選び、そこから自分が得たことについて具体的に記入しましょう。)

3 高等学校卒業後の進路について
(将来の夢や目標、将来なりたい職業など、高等学校卒業後の進路について自分が考えていることを具体的に記入しましょう。)

(参考) 東京都教育委員会「「令和7年度東京都立高等学校入学者選抜実施要綱・同細目」において志願者が作成する様式について」
(https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/admission/high_school/archives/exam/applicantfile2025)

報告 関係資料

報 告

(1) 令和7年度宮城県公立高等学校入学者選抜結果について

① 総括	1
② 学科別出願者数・合格者数等	2
③ 地区別出願者数・合格者数等（全日制課程）	2
④ 学科別出願倍率	3
⑤ 地区別出願倍率（全日制課程）	3
⑥ 出願状況から見た全県一学区に伴う地区外受験状況について	3
⑦ 令和7年度公立高等学校入学者選抜学力検査の分析結果について	4

(2) 令和8年度宮城県公立高等学校入学者選抜について

① 募集定員	6
② 日程等	6
③ ウェブ出願について	7
④ 調査書の様式について	11

その他

(1) 本県の全国募集の状況について	12
--------------------	----

(1) 令和7年度宮城県公立高等学校入学者選抜の結果について

① 総 括

(単位:人)

		全 日 制 課 程		定 時 制 課 程	
		令和7年度	令和6年度	令和7年度	令和6年度
中学校卒業予定者数 ※1		19,269	19,689	—	—
募 集 定 員 (a)		13,440	13,640	960	960
第 一 次 募 集	出 願 者 数	13,349	13,609	397 (3)	384 (2)
	出 願 倍 率 (倍)	0.99	1.00	0.41	0.40
	欠 席 者 数	207	182	7	10
	受 験 者 数	13,142	13,427	390 (3)	374 (1)
	受 験 倍 率 (倍)	0.98	0.98	0.41	0.39
	合 格 者 数 (b)	11,361	11,817	385 (3)	366 (1)
併設型中学校から併設型高等学校への入学※2		(196)	(196)	↑	↑
連 携 型 選 抜 ※3	募 集 人 数	(72)	(72)	(注) ()内数字は、社会人特別選抜合格者数で内数。	
	出 願 者 数	(34)	(35)		
	合 格 者 数	(34)	(35)		
第 二 次 募 集	募 集 人 数	2,081	1,828	575	594
	出 願 者 数	149	107	28	29
	受 験 者 数	149	106	28	27
	合 格 者 数 (c)	143	101	26	25
全 合 格 者 数 (d) = (b) + (c)		11,504	11,918	411	391
充 足 率 (%) (d) ÷ (a) * 100		85.6%	87.4%	42.8%	40.7%

※1 中学校卒業予定者数は、令和7年度は令和6年5月1日現在、令和6年度は令和5年5月1日現在の数字である。

※2※3 併設型中学校から併設型高等学校への入学及び連携型選抜の数値は、第一次募集の出願者数・受験者数・合格者数の内数である。

全国募集選抜※4	出願者数	受験者数	合格者数
	11	11	11

※4 第一次募集人数の外数である。

(単位:人)

		通信制課程(一期)		通信制課程(二期)	
		令和7年度	令和6年度	令和7年度	令和6年度
入 学 者 選 抜	募 集 定 員	450	450	50	50
	募 集 人 数	450	450	216	199
	出 願 者 数	177	196	9月受付	6
	受 験 者 数	177	195	9月実施	6
	合 格 者 数	177	195	9月実施	6

② 学科別出願者数・合格者数等

イ 全日制課程

(単位:人、%)

	学 科	募集定員	第一次募集			中高一貫教育 進学者数	第二次募集 合格者数	全合格者数
			出願者数	合格者数	合格率			
1	普 通	8,640	9,132	7,672	84.0%	224	93	7,765
2	農 業	640	517	489	94.6%	—	2	491
3	工 業	1,480	1,501	1,279	85.2%	—	12	1,291
4	商 業	1,000	859	769	89.5%	6	14	783
5	水 産	200	141	139	98.6%	—	4	143
6	体 育	120	94	100	106.4%	—	1	101
7	英 語	80	112	80	71.4%	—	—	80
8	家 庭	120	73	64	87.7%	—	2	66
9	看 護	40	49	40	81.6%	—	—	40
10	理 数	120	152	120	78.9%	—	—	120
11	美 術	40	72	40	55.6%	—	—	40
12	総 合	800	450	434	96.4%	—	15	449
13	福 祉	40	16	15	93.8%	—	0	15
14	災害科学	40	60	40	66.7%	—	—	40
15	探 究	80	121	80	66.1%	—	—	80
計		13,440	13,349	11,361	85.1%	230	143	11,504

※ 中高一貫教育進学者数は、連携型選抜合格者数と併設型中学校から併設型高校への進学者数を合わせたもの。第一次募集合格者数の内数である。

ロ 定時制課程

(単位:人、%)

	学 科	募集定員	第一次募集			中高一貫教育 進学者数	第二次募集 合格者数	全合格者数
			出願者数	合格者数	合格率			
1	普 通	720	367	357	97.3%	—	21	378
2	工 業	240	30	28	93.3%	—	5	33
計		960	397	385	97.0%	—	26	411

③ 地区別出願者数・合格者数等(全日制課程)

(単位:人、%)

	地 区	募集定員	第一次募集			中高一貫教育 進学者数	第二次募集 合格者数	全合格者数
			出願者数	合格者数	合格率			
1	刈田・柴田	1,120	903	856	94.8%	—	21	877
2	伊 具	280	181	180	99.4%	—	13	193
南部地区		1,400	1,084	1,036	95.6%	—	34	1,070
3	亘理・名取	920	901	817	90.7%	—	6	823
4	仙 台 南	2,320	2,926	2,319	79.3%	102	1	2,320
中部南地区		3,240	3,827	3,136	81.9%	102	7	3,143
5	仙 台 北	2,720	3,451	2,627	76.1%	—	8	2,635
6	塩 釜	1,040	1,143	992	86.8%	—	7	999
7	黒 川	440	470	364	77.4%	—	9	373
中部北地区		4,200	5,064	3,983	78.7%	—	24	4,007
8	大 崎	1,200	992	886	89.3%	94	27	913
9	遠 田	400	258	250	96.9%	—	3	253
10	登 米	560	431	423	98.1%	—	4	427
11	栗 原	440	291	282	96.9%	—	4	286
北部地区		2,600	1,972	1,841	93.4%	94	38	1,879
12	石 巻	1,400	1,055	1,019	96.6%	—	39	1,058
13	本 吉	600	347	346	99.7%	34	1	347
東部地区		2,000	1,402	1,365	97.4%	34	40	1,405
総 計		13,440	13,349	11,361	85.1%	230	143	11,504

※ 中高一貫教育進学者数は、連携型選抜合格者数と併設型中学校から併設型高校への進学者数を合わせたもの。第一次募集合格者数の内数である。

④ 学科別出願倍率

※H31は後期選抜、H24は一般入試

(単位：倍)

学 科		出願倍率				
		R7	R6	R5	H31	H24
1	普 通	1.06	1.06	1.11	1.18	1.27
2	農 業	0.81	0.92	0.83	1.13	0.94
3	工 業	1.01	0.91	0.96	1.08	1.21
4	商 業	0.86	0.94	0.87	0.95	1.28
5	水 産	0.71	0.67	0.55	0.77	0.97
6	体 育	0.78	0.89	0.85	1.28	1.54
7	英 語	1.40	1.10	1.11	0.89	1.22
8	家 庭	0.61	0.67	0.73	0.95	1.06
9	看 護	1.23	1.00	1.20	1.50	1.50
10	理 数	1.27	1.42	1.54	1.40	1.29
11	美 術	1.80	1.30	1.60	1.45	1.00
12	総 合	0.56	0.64	0.64	0.79	1.12
13	福 祉	0.40	0.60	0.93	0.40	—
14	災害科学	1.50	1.35	0.95	1.04	—
15	探 究	1.51	1.41	1.31	—	—
全日制課程		0.99	1.00	1.02	1.11	1.23
定時制課程		0.41	0.40	0.37	0.36	0.49

⑤ 地区別出願倍率(全日制課程)

※H31は後期選抜、H24は一般入試

(単位：倍)

地 区		出願倍率				
		R7	R6	R5	H31	H24
南部地区		0.77	0.78	0.85	0.84	0.96
中部南地区		1.18	1.21	1.23	1.30	1.46
中部北地区		1.21	1.18	1.21	1.39	1.48
北部地区		0.76	0.76	0.76	0.78	0.97
東部地区		0.70	0.74	0.79	0.84	0.98
総 計		0.99	1.00	1.02	1.11	1.23

⑥ 出願状況から見た全県一学区化に伴う地区外受験状況について

※数値は総受験者に対する各地区外受験者数の割合(%)、H31は後期選抜、H24は一般入試

全体推移		県内一学区(H22～)				
		第一次募集制			前期・後期制	一般入試制
		R7	R6	R5	H31	H24
地区外受験者の割合		17.7%	17.1%	17.2%	18.0%	14.5%
内訳	1 中部南北地区間	10.9%	10.8%	10.3%	10.9%	8.7%
	2 中部地区と他地区間	6.1%	5.6%	5.7%	6.3%	5.0%
	3 中部地区以外の地区間	0.7%	0.7%	0.9%	0.8%	0.8%

1 目的

- (1) 検査問題の妥当性を検証し、今後の内容・形式等の改善に役立てる。
- (2) 受験者の学習成果の実態を明らかにし、県下中学校の学習指導上の課題を考察し、改善の指針を示す。

2 学力検査の実施教科

国語、社会、数学、理科、英語

3 分析結果

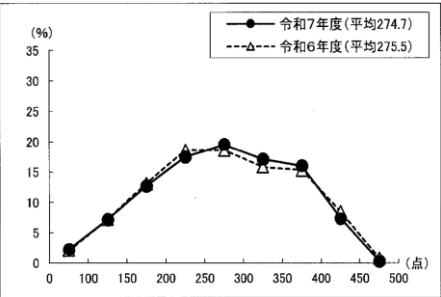
(1) 平均点

教科	国語	社会	数学	理科	英語	総点	受験者数
平均	58.6 (59.0)	56.1 (59.6)	47.0 (49.9)	57.4 (56.6)	55.5 (50.4)	274.7 (275.5)	12,910人 (13,149人)
最高	94 (96)	100 (100)	100 (100)	98 (100)	100 (100)	467 (479)	
最低	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
中央値	61 (61)	57 (61)	47 (51)	58 (57)	56 (46)	276 (274)	
最頻値	69 (63)	68 (82)	44 (54)	67 (57)	44 (23)	275 (220)	
合格者平均	58.8 (59.0)	56.2 (59.4)	47.1 (49.8)	57.6 (56.5)	55.6 (50.1)	275.4 (274.8)	

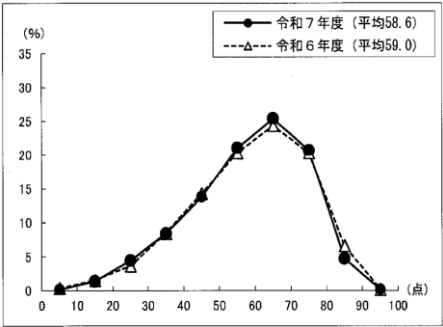
※ 数値は、全日制課程受験者の値
※ () は昨年度の値

(2) 総点及び各教科の得点分布

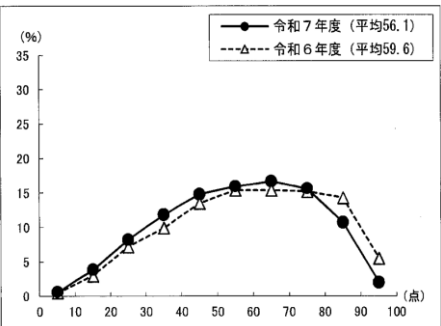
総点



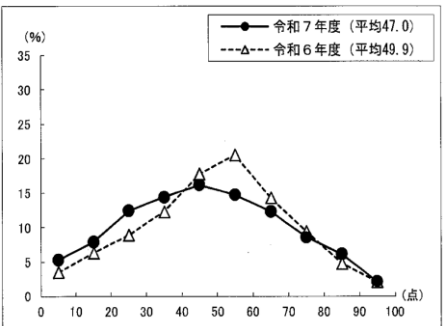
国語



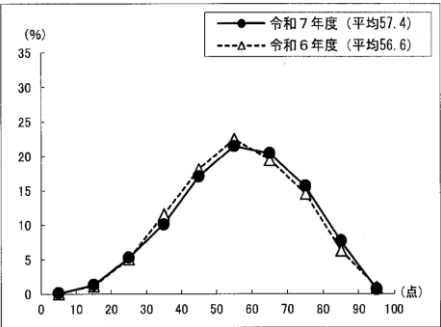
社会



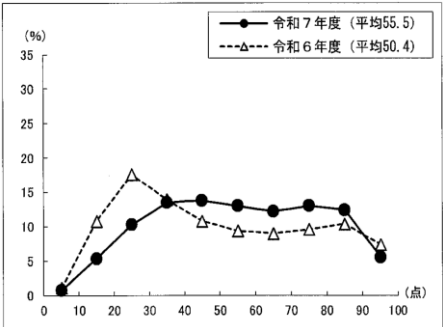
数学



理科



英語



(3) 各教科の概況

全日制課程の学校・学科の中から学力検査総点の受験者平均点を基にして50校・学科を抽出、さらに調査書総点ごとのバランスに留意して合計400人の答案を抽出し、教科ごと、小問ごとにその状況を分析考察した。

教科	概況
国語	漢字の読み書きや、説明的な文章を読んで、筆者の論の進め方を捉えることはできているが、文章の表現の特徴を捉えることや、古典に表れたものの見方や考え方を捉えることに課題が見られた。
社会	日本の地域的特色や人権尊重の理解、資料から基本的な情報を読み取ることはできているが、歴史的事象を関連付けて捉えることや、複数の資料を活用して論理的に考察し表現することに課題が見られた。
数学	数と式の計算に関する基本的な知識・技能の定着は見られるが、条件を読み取り、数学的に処理、表現することや、問題解決への見通しを持ち、数学的に考察し処理することに課題が見られた。
理科	自然の事物・現象についての基本的な知識や観察・実験の基本的な技能は身に付いているが、観察・実験の結果を分析・解釈し、関係性や規則性を見いだすことや、知識を活用して表現することに課題が見られた。
英語	簡潔な資料から情報を読み取ること、意欲的に自分の考えを伝えようとするということについては学びの成果が見られるが、英文の概要や要点を把握することや、正確な英語で自分の考えを書くことに課題が見られた。
まとめ	基本的な知識や事象の理解は定着しており、与えられた情報から必要なものを読み取る基礎的な能力は身に付いている。一方、複数の資料から情報を読み解き、関係性や規則性を見いだす力や、論理的に考察し、自分の考えを明確に表現することに課題が見られた。

(4) 今後の対応

知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成するため、生徒が主体的に学習活動に取り組む場面の設定などの工夫や、授業の構成及び指導のあり方の改善が必要である。

教科	授業づくりのポイント
国語	○文章中の表現の効果について、根拠を明確にしながら自分の考えを書いたり発表したりする活動の充実 ○古典について解説した文章、音声や映像メディア等を活用するなど古典の世界を想像できる活動の充実
社会	○地理的・歴史的・公民的な見方・考え方を働かせ、有機的に関連付けができる題材や問いの工夫 ○諸資料を活用し、情報を収集する活動、収集した情報を読み取り、まとめる活動の実践
数学	○スモールステップでの指導による、順序立てて考察する活動の充実 ○解決の見通しや考察した過程、根拠を確認する対話的な活動の充実
理科	○観察、実験の結果について、関係性や規則性を見いだす活動の時間確保 ○探究の過程を通して、表現力の育成につながる言語活動の充実
英語	○英文読解時における、時系列に情報を整理したり、大まかな内容を把握したりする活動の充実 ○言語活動時における、生徒の気付きを促しながら、表現の正確性が高まるような指導の実践

（２） 令和８年度公立高等学校入学者選抜について

① 募集定員

		令和８年度	令和７年度	増減
全日制課程＋定時制課程		14,360	14,400	▲ 40
	全日制課程	13,400 ※ ¹ ※ ²	13,440 ※ ¹ ※ ²	▲ 40 ※ ³
	定時制課程	960	960	0
通信制課程（美田園高校）		500	500	0
	一期入学者選抜	450	450	0
	二期入学者選抜	50	50	0

※１： 全日製の第一次募集の募集定員には、併設型及び連携型中学校からの入学予定者２８２人を含む。

※２： 全国募集選抜の募集人数は、募集定員の外数とし、南三陸高等学校で１２人程度、中新田高等学校で５人程度の募集である。

※３： 募集定員減の内訳

① 塩釜高等学校普通科の１学級減による、４０人の減。

② 日程等

第一次募集・連携型選抜・全国募集選抜 ※ ⁴ ※ ⁵		実施する検査等
本試験	令和８年３月４日（水）	○ ５教科の学力検査（国語・社会・数学・英語・理科） ○ 学校によっては面接・実技・作文のいずれかを実施
追試験 ※ ⁶	令和８年３月１０日（火）	○ 本試験に準じる
合格発表	令和８年３月１６日（月）	
第二次募集 ※ ⁷		実施する検査等
検査日	令和８年３月２３日（月）	○ 学力検査、面接、実技、作文のいずれか１つ又は複数を実施 ○ 学力検査を実施する場合は、国語・数学・英語のうち１教科以上を実施
合格発表	令和８年３月２３日（月） または２４日（火）	○ 合格発表の日程については、実施校で定め、後日公表する

※４： 連携型選抜については、連携型中高一貫教育を行っている南三陸町内の２中学校（志津川中、歌津中）の生徒を対象として、南三陸高等学校において実施。

※５： 全国募集選抜については、南三陸高等学校、中新田高等学校において実施。

※６： やむを得ない事由で、本試験を受験できなかった生徒を対象として実施。

※７： 第一次募集に合格していない生徒等を対象として、合格者数が募集定員に満たない高校において実施。

宮城県公立高等学校入学者選抜
宮城県立中学校入学者選抜
仙台市立中等教育学校入学者選抜

入試の出願手続きが

ウェブ出願 に変わります

令和8年度入試（令和7年度実施）から

選抜手数料

選抜手数料や入学金は、クレジットカード決済、ペイジー決済、コンビニ決済のいずれかの方法（予定）で納付します。



必要書類

調査書などの出願の際に必要な各種書類の提出についても、システムで行います。（予定）
※高校入試のみ



出願

インターネットに接続できるPCやスマホ、タブレットを使用して、システム上で必要事項の入力や写真の登録を行います。



受験票

受験票は、システムから各自で印刷して、当日持参します。なお、印刷は、自宅のプリンターや、コンビニのプリントサービスを利用可能です。



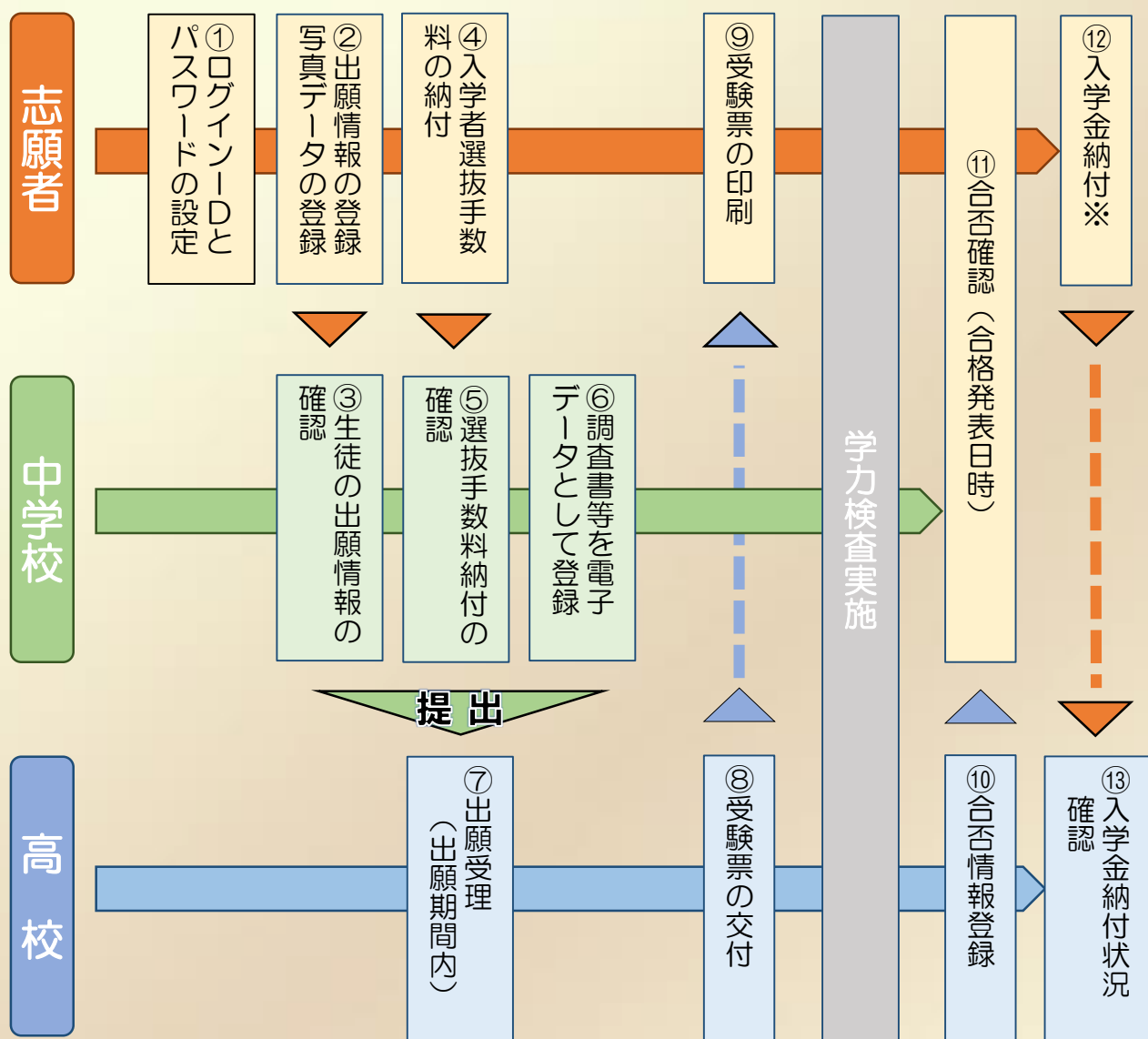
合否確認

合否結果は、ウェブ出願システムで確認ができます。



宮城県教育委員会
仙台市教育委員会
石巻市教育委員会

高校入試出願手続きの流れ（予定）



※入学金納付については、現在調整中

- ログインIDとパスワード登録には、メールアドレスが必要となります。
- 写真データは、スマートフォンやデジタルカメラ等で撮影した画像データを登録できます。
- ④の入学者選抜手数料及び⑫の入学金は、クレジットカード決済、コンビニ決済、ペイジー決済のいずれかで納付いただく予定です。
- 県外からの出願の場合、事前にシステム上で出願申請を行い、承認を受ける必要があります。（全国募集も含む。）
- 合格者は、入学準備物等の書類を高校に受領しに行く必要があります（日程等は現在検討中）。

今後、詳細が決まり次第、改めてウェブページ等でお知らせいたします。

※記載内容は令和7年6月現在のものであり、今後変更される場合があります。

県立中入試・仙台市立中等教育学校入試 出願手続きの流れ（予定）

小学校

※白い箱囲み（）と矢印（）は、システムを使用しない手続きです。

調査書等作成

- ログインIDとパスワード登録には、メールアドレスが必要となります。
- 写真データは、スマートフォンやデジタルカメラ等で撮影した画像データを登録できます。
- 出願は、②と③はシステムで登録し、⑤は、持参又は郵送となります。
- ③の入学者選抜手数料は、クレジットカード決済、コンビニ決済、ペイジー決済のいずれかで納付いただく予定です。
- ④の出願確認票は、②、③の操作完了後にシステムから印刷できます。
- 県外（市立は市外）からの出願の場合、事前にシステム上で出願申請を行い、承認を受ける必要があります。

志願者

志願理由書作成

調査書等作成依頼

調査書等受領

⑤調査書、志願理由書及び出願確認票の提出（出願期間内）

①ログインIDとパスワードの設定

②出願情報の登録
写真データの登録

③入学者選抜手数料の納付

④出願確認票印刷

システム登録

持参
又は
郵送

⑧受検票の印刷

⑩合格発表日時
（合格発表日時）

適性検査実施

県立中学校・
仙台市立中等教育学校

⑥出願受理（出願期間内）

⑦受検票の交付

⑨合格情報登録

今後のスケジュール(予定)

公立高校入試

県立中・仙台市立中等教育 学校入試

8月頃：手続きの手順等の公開（マニュアル・動画）

10月頃：トライアルサイト開設

※トライアルサイトでは、実際の手続きを模擬体験できます。

12月頃：県外受験申請受付開始

11月頃：出願情報事前登録開始

未定：志願者の出願情報登録開始

12月頃：出願期間(調査書等郵送)

2月中旬：中学校で高校への提出操作

1月10日：適性検査実施日

3月4日：第一次募集学力検査日

1月16日：選抜結果発表

3月5日：面接・実技等実施日

1月下旬：入学確約書受付

3月10日：第一次募集追試験

3月11日：追試験面接・実技等

～2月上旬：欠員が生じた場合の追加
合格者の意思確認

3月16日：第一次募集選抜結果
発表

※日程や手続きの内容、マニュアル等
については、準備ができ次第、下記の
ウェブページに公開します。

3月下旬：第二次募集実施日

ウェブページ(入試情報)

＜高校入試＞宮城県教育庁高校教育課教育指導第二班のページ

<https://www.pref.miyagi.jp/site/sub-jigyoku/kyo-r8-web-shutsugan.html>

＜県立中入試＞宮城県教育庁高校教育課教育指導第二班のページ

<https://www.pref.miyagi.jp/site/sub-jigyoku/kyo-r8-tyuu-web-shutsugan.html>

＜仙台市立中等教育学校入試＞

仙台市教育局学校教育推進部高校教育課入学者選抜関連情報

<https://www.city.sendai.jp/kokokyoiku/kurashi/manabu/kyoiku/inkai/kanren/nyugakusenbatsu.html>

高校入試



県立中入試



仙台市立
中等教育
学校入試

(お問い合わせ先) 宮城県教育庁 高校教育課 教育指導第二班 022-211-3649

仙台市教育局 学校教育推進部 高校教育課 022-214-8422

石巻市教育委員会 学校教育課

0225-95-1111 (代表)

(令和●年度入学者選抜用)

調査書

ふりがな 氏 名		性別	
生年月日	平成 年 月 日生		
卒業年月	令和 年 月		

調査書等作成委員会	
記載責任者印	

受験番号	※No.
------	------

記載内容に誤りがないことを証明します。

令和 年 月 日

学 校 名

校 長 氏 名

印

1 各教科の学習の記録					
教科	学年	1	2	3	※
国 語					
社 会					
数 学					
理 科					
外 国 語					
音 楽					
美 術					
保 健 体 育					
技 術・家 庭					

4 特別活動等の記録
(1) 学級活動 (2) 生徒会活動 (3) 学校行事 (4) その他

2 総合的な学習の時間の記録

5 スポーツ活動, 文化活動, 社会活動, ボランティア活動等の記録

3 行動の記録			
基本的な生活習慣		思いやり・協力	
健康・体力の向上		生命尊重・自然愛護	
自主・自律		勤労・奉仕	
責 任 感		公正・公平	
創意工夫		公共心・公德心	

6 特記事項

※No.

本県の全国募集の状況について

１ 概要について

- 次のことを目的として、令和５年度入試から、中新田高校及び南三陸高校をモデル校として全国募集を実施

県外の生徒と本県の生徒が共に学び、多様な価値観に触れることで視野を広げ、他者と協働、共生しながら、互いを高め合い、心身ともに豊かな人間への成長を促す。また、地元自治体の協力の下、地域の資源等を最大限に活用し、学校の特色や魅力づくりに取り組むことで教育活動の活性化を図り、地域の未来を切り拓く新しい価値を生み出すことができる人材を育成する

- モデル校の選定に際しては、次の要件を満たしている高等学校から選出
 - イ 市町村（地域）との連携が確立されていること
 - ロ 市町村（地域）による生徒の受入体制の準備が整っていること
 - ハ 学校（学科）の教育活動に特色があること
 - ニ 過去５年の学科ごとの充足率において、１．０倍未満である年が３年以上である
- 生徒の安全・安心の確保のために、身元引受人、高等学校、県教委及び市町村が取り組む事項を提示
 - （１）身元引受人
 - イ 生徒の健康、食生活及び日常の生活に関する見守りを行うこと
 - ロ 生徒と日常的に関わり、生徒の状況を保護者や学校と共有すること
 - ハ 生徒の病気やけがの際には、高等学校と連携して対応すること
 - ニ 必要に応じて、高等学校の教育活動に参加すること
 - （２）高等学校
 - イ 生徒が不安をもった際にいつでも相談できるよう、相談体制を整備すること
 - ロ 保護者及び身元引受人との連携体制を確立すること
 - ハ 家庭訪問（下宿・アパート等）により、生徒の食生活等日常の生活環境を把握すること
 - ニ 生徒との日常のコミュニケーションを通じて、生徒の状況を把握すること
 - ホ 生徒の病気やけがの際には、身元引受人と連携して対応すること
 - ヘ 生徒の生活状況や身元引受人の見守りの状況等の報告を県教育委員会へ年１回行うこと

(3) 県教育委員会

- イ 保護者や教職員に身元引受人の役割について周知徹底を行うこと
- ロ 生徒の生活状況や身元引受人の見守りの状況等を把握すること
- ハ その他必要に応じて指導・助言を行うこと

(4) 市町村

- イ 身元引受人を確保すること
- ロ 生徒の学校生活に支障が生じないよう支援を行うこと
- ハ 原則として、事前に志願者及び保護者と面接等を行い、入学後の支援体制について確認すること
- ニ 高等学校と情報共有を図り、生徒の安全・安心の確保に努めること

- 5年間の実証を踏まえて、令和10年度入試からの本格導入を検討することとしている。

2 自治体の支援について

加美町	南三陸町
○ 加美町では、令和7年度から、中新田高等学校に入学する生徒を「加美町かみ〜ご留学生」として募集 ⇒加美町長が身元引受人となり、寮の開設や食事のケア(1日三食)、地域によるサポート体制や各種費用の支援を行っている。 ○ 雄大な自然・多様な文化や産業・地域に根差したアウトドアスポーツ(カヌー・ロードバイク・パークゴルフ)等、加美町の地域が体験学習や探究学習の場として提供・支援 ○ 地域みらい留学への登録費の補助 ○ 地域コーディネーターの配置	○ 公営塾「志翔学舎」と連携した学習保障・大学進学指導の支援 ○ 「南三陸 kizuna 留学」の設置 ⇒南三陸町長が身元引受人となり、町で学生寮「旭桜寮」を開設し、親元を離れて暮らす子供たちのきめ細かいケアにあたるほか、無料の公営塾で勉強をバックアップ。その他、食事や地域によるサポート体制、各種費用の支援 ○ 寮への定期的な保健師の派遣 ○ 地域みらい留学への登録費の補助 ○ 学校と連携した魅力ある教育活動の支援 ○ 地域コーディネーターの配置

3 全国募集実施校の入試状況について

募集人数：中新田５名程度、南三陸（普）８名程度、（情）４名程度

※募集人数は、募集定員の外数

令和７年度	学科	出願者	受験者	合格者
中新田高校	普通科	２人	２人	２人
南三陸高校	普通科	５人	５人	５人
	情報ビジネス科	４人	４人	４人

令和６年度	学科	出願者	受験者	合格者
中新田高校	普通科	０人	０人	０人
南三陸高校	普通科	５人	５人	５人
	情報ビジネス科	５人	５人	５人

令和５年度	学科	出願者	受験者	合格者
中新田高校	普通科	１人	１人	１人
南三陸高校	普通科	３人	３人	３人
	情報ビジネス科	２人	２人	２人

（参考）県外中学校出身者の在籍者数（令和７年度学校要覧より）

中新田高校：３名（関東３名）

南三陸高校：２０名（関東１７名、東海１名、東北１名、北陸１名）

4 地域みらい留学における全国募集の状況

※地域みらい留学は、住んでいる都道府県の枠を超えて、自分の興味関心にあった高校を選択し、高校3年間でその地域で過ごす国内進学プログラム。
 ※地域みらい留学に、全国から169の高校が登録している(2025年5月現在)。

(1) 地域みらい留学参画校数について

○ 約75%の道府県が利用しており、参画校数は増加傾向にある。

都道府県名	2025 年度	2023 年度	都道府県名	2025 年度	2023 年度
北海道	37	12	奈良県	1	1
青森県	5	5	和歌山県	1	1
岩手県	13	9	鳥取県	7	3
宮城県	2	2	島根県	12	13
秋田県	3	1	岡山県	3	3
山形県	6	4	広島県	4	3
福島県	4	2	山口県	1	1
茨城県	1	1	徳島県	4	2
群馬県	1	0	香川県	0	1
新潟県	6	2	愛媛県	8	7
富山県	1	0	高知県	10	6
石川県	2	1	佐賀県	2	2
福井県	3	2	長崎県	1	0
長野県	3	1	熊本県	6	1
静岡県	2	3	大分県	4	3
三重県	1	2	宮崎県	2	2
滋賀県	3	1	鹿児島県	8	5
京都府	1	0	沖縄県	1	1
兵庫県	0	1	合計	169	104

(2) 地域みらい留学参加校における県外からの生徒数 (2025 年度)

○ 県外から入学した生徒の数は、年々増加傾向にある。

都道府県名	1 年生	2 年生	3 年生	都道府県名	1 年生	2 年生	3 年生
北海道	1 4 4	1 3 6	8 9	奈良県	1 3	1 1	1 0
青森県	7	6	3	和歌山県	9	4	1 0
岩手県	3 8	2 9	1 6	鳥取県	2 5	2 5	1 4
宮城県	1 3	7	3	島根県	1 5 9	1 6 3	1 5 5
秋田県	7	3	3	岡山県	2 9	9	1 0
山形県	1 7	1 4	9	広島県	4 2	4 2	5 2
福島県	1 6	7	1 3	山口県	1 1	6	7
茨城県	8	1	1	徳島県	3 9	4 6	2 8
群馬県	4	6	2	香川県	0	0	0
新潟県	8	3	7	愛媛県	9 4	8 5	6 1
富山県	6	0	0	高知県	5 3	4 5	2 4
石川県	1 4	6	9	佐賀県	2 1	2 2	1 7
福井県	2 7	1 8	2 9	長崎県	1	0	0
長野県	2 1	2 3	7	熊本県	1 4	8	1 1
静岡県	6	3	4	大分県	2 3	1 8	1 2
三重県	2 9	2 8	1 4	宮崎県	1 7	1 4	1 4
滋賀県	5	3	4	鹿児島県	2 1	1 9	2 5
京都府	0	2	0	沖縄県	1 0	1 1	1 2
兵庫県	0	0	0	合計	9 5 1	8 2 3	6 7 5

5 今後について

- 本県においては、今後急速に少子化が進む見通しとなっており、県立高校将来構想を今年度内に策定する予定としている。
- 我が県の全国募集が軌道に乗っていることや全国的に広がりを見せていることを鑑み、時限的なモデル校の位置づけを早急に検討する必要があると考えている。
- 入学者選抜審議会での御意見を踏まえ、我が県における全国募集について取りまとめていきたい。

公立高校の全国募集に関する他道府県の状況

別紙

※各道府県教委への聞き取り、各県HP、実施要項などにより作成。実施校数は令和7年度入試における校数。

都道府県名	宮城県	秋田県	岩手県	島根県	愛媛県	大分県
公立高校数	81	51	74	41	44	44
県外受験枠設定校	2	51	17	41	44	28
全国募集実施校	2	51	17	16	12	4
地域みらい留学参加校数	2	1	13	12	8	4
2025年在籍者数（地域みらい留学校における県外からの生徒数）						
	1年生	13	7	38	159	23
	2年生	7	3	29	163	18
	3年生	3	3	16	155	12
定員内外	外数	内数	内数	内数	内数	内数
身元引受人の要不要	必要	不要	不要	必要	不要	不要
市町村の支援体制						
	身元引受人の紹介等	あり	なし	なし	あり	なし
	寮、下宿等	あり	なし	あり	あり	あり
	奨学金、費用補助	あり		あり	あり	あり
	その他	○公営塾の設置（南三陸町） ○地域みらい留学への登録費の補助 ○地域コーディネーターの配置	○市町村によっては、学校給食等の支援			○体験入学時の交通費補助
入学者が多い学校の特徴		○部活動関係による入学。 ○学校寮や地域の準備した寮を設置している学校。	○寮等が整備されていること。 ○学校の特色（馬学、潜水）が明確な学校。	○地域と連携した学びを実践している学校	○長浜高校、水族館部（部活動）	○学生寮を設置している2校（県設置1校、自治体設置1校）の志望者が多い。
課題	○寮の収容人数の不足（南三陸町）		○特になし	○全国的に全国募集実施校が増えている中で埋没しないこと。 ○単に受験者を増やすのではなく、県外からの生徒と地元の生徒の双方にとっての学びの魅力を高めること。	○住むところの整備 ○転学者、退学者数の割合の多さ	○地域みらい留学への参加金（132万円について、これまで県が支出していたが、今後支出し続けられるか。 ○寮の有無が志望に大きく影響している。市町村から全国募集の要望があった際、住居環境の整備について課題になることがある。
その他		○全国募集の入学者数は、各学科の募集定員の15%を上限。ただし、地域みらい留学を実施している男鹿海洋高校は上限30%で実施。 ○定員が充足している学校に全国募集受験生が合格しているが、人数が多くないこともあり、苦情等はない。 ○寮や下宿が中心で、地域によってはアパートを利用。原則として、生徒・保護者が自身で探す。 ○アパートを探して生活しているため、居住場所が減ってきていると聞いているが、問題になるほどではないとも聞いている。	○(1)地域ふるさと振興校（県教委と高校で協議して実施）、(2)留学実施校（県教委と地元自治体等が協議して実施）、(3)特色教育課程校（全国的に特色のある学科で実施）のいずれかに該当する高校で実施。 ○(1)地域ふるさと振興校は、各高校が入学後の居住環境を紹介。 ○(2)留学実施校3校は、各自治体の留学制度の候補者に決定後に出願。 ○緊急時は、学校や下宿先が対応する学校もある。 ○一般入学者選抜の志願者数が一般入学者選抜の募集定員を超えない学科においては、「いわて留学」（県外募集）の募集定員を超えた数の県外からの受検者を合格とすることができる。	○保護者が県外に居住していても、県内に居住している確かな身元引受人があれば、県外からも受験可能。合格者数については、松江市内及び出雲市内の学校は4名以内、その他の高校では各学校において定める（4%～制限なし）。 ○寄宿舎を持つ県立高校が多い。加えて、自治体の協力により住まいの環境を整えている。	○愛媛県は3学区制。募集割合の5%を超えない範囲内で、通学区域によらず入学可。県外から入学は、この範囲内で可能。 ○愛媛留学（全国募集）を実施している12校は、他の高校よりも多い割合（10%～50%）で募集している。 ○愛媛留学の実施に当たっては、地域の受け入れ体制などを条件とした。	○全国募集を実施している学校については、身元引受人不要、県外受験の申請不要で受験可能（各校で、募集人数に対する割合を設定）。 ○大分市、別府市以外の高校については、保護者が県外に居住していても、県内に居住している確かな身元引受人があり、県外受験の申請・許可を経れば、県外から受験可能（募集人数の内数で、人数制限はない）。